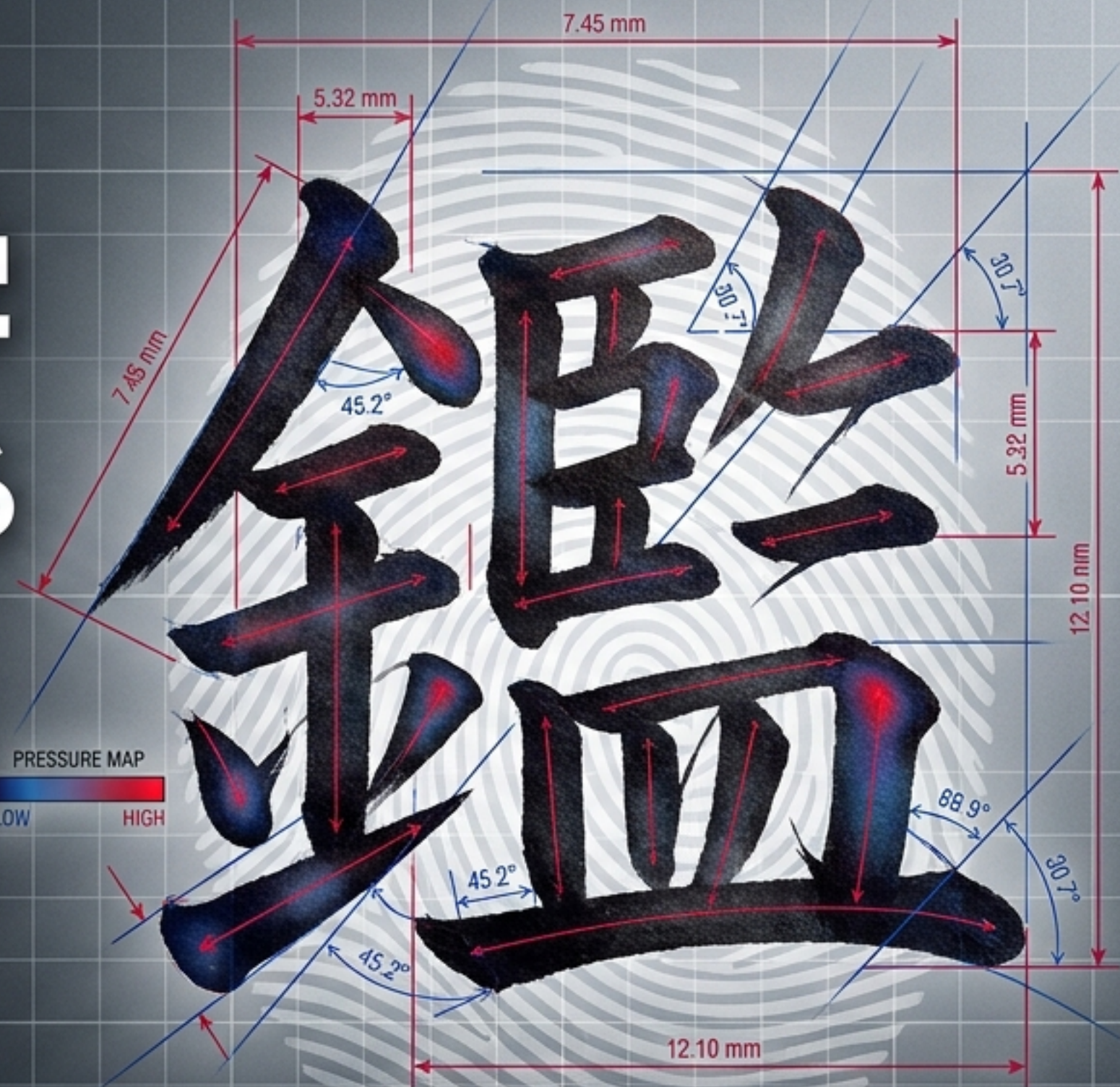


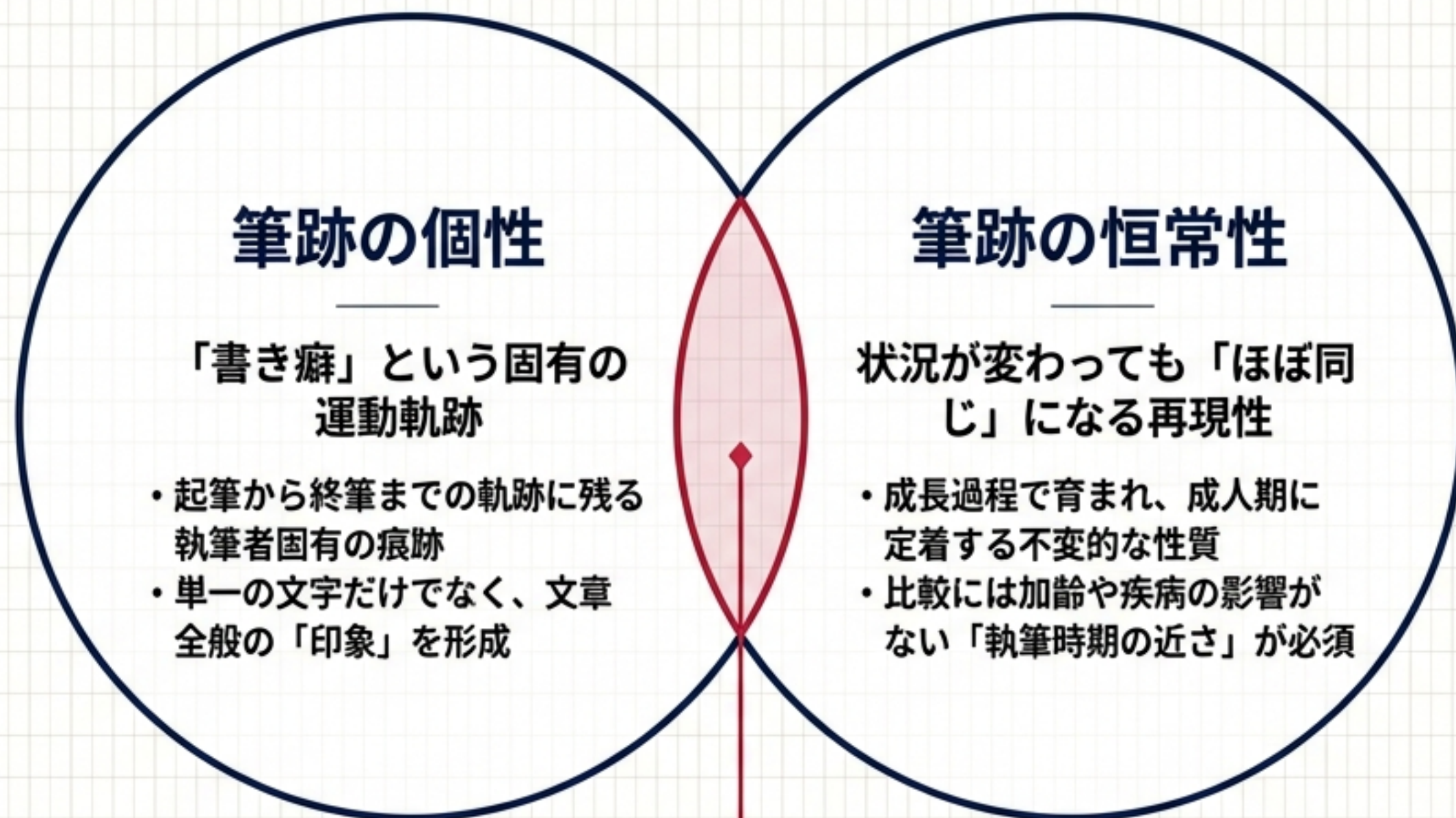
筆跡鑑定科学

書字行動の指紋を解読する

主観から客観へ。
文字に隠された「固有の運動軌跡」
を読み解く3つのステップ



1. 鑑定の基本原理：筆跡鑑定を成立させる「2つの法則」と「1つの変数」



個人内変動（不可避な変数）

人間は機械ではないため生じる「避けられないブレ」。同一人物でも点画の位置や角度にわずかな変動が生じる。この「変動の許容範囲」を見極めることが鑑定の生命線。

! Insight: 過去の筆跡と「寸分違わぬ文字列」が存在した場合、個人内変動が無いのではなく、「透かし書き（トレース）」などの偽造の可能性が極めて高い。

2. 具体的な判定ポイント：文字の解剖学

点と線の集合体を、客観的な「6つの視点」から立体的に観察する

1. 筆順 (Stroke Order)

比較対照する文字同士が、同じ固有の順序（癖）で書かれているか
を検査する。

3. 文字形態 (Morphology)

偏と旁の配置、濁点の位置、縦横書式の違いなど、書字行動による「文字の全体概観」を捉える。

5. 筆圧 (Pressure)

記載面に加えられた圧力。筆圧痕や下書きの痕跡を読み取るため「現物（原本）」での鑑定が不可欠。

2. 点画の構成 (Composition)

個々の点画の位置、角度、長さ、交差する位置など、組み合わされた線の「関係性」を計測する。

4. 筆勢 (Momentum)

筆の勢い、速さ、力加減。偽造時（考えながら書く時）には、不自然な筆の停止や持ち上げが生じる。

6. 誤字・誤用 (Errors)

筆者の癖として固着した間違っただ覚え込み。強力な個人特徴だが、偽造もされやすいため極めて慎重な観察が求められる。



3. 筆跡鑑定のアプローチ：主観的観察から客観的解析への進化

項目	指摘法（伝統的筆跡鑑定法）	分類法（科学的解析法）
主な着眼点	筆者の国語能力・個別の文字形態	筆者の特徴・用字癖（書字行動全体）
アプローチ	文字の点画をつぶさに点検し、目立つ類似点や相違部分を抽出・指摘する	目立つ特徴点だけでなく、文章全体の傾向や性質を総合的に捉える
判定の基盤	鑑定人の「勘」と「個人的な経験」への依存度が大きい	属人性を排除し、人間の書字行動の個性をデータとして客観的に検査・判断する

現在の精緻な鑑定における主流： ハイブリッド検証

主観に頼らない観察が必須となる現在、コンピュータによる角度計測やグリッド基準の適用、光学機材を用いた筆圧痕検査（科学的検証）と、筆脈や意連・形連を読み取る人間の目（伝統的観察）を掛け合わせた複合的な判定が行われている。